

「事業団の仲間の奪還、物販運動の強化を」

十一月二十六日、新小岩支部第十一回定期大会は四七名の支部組合員の参加で開催された。大会は柴崎執行委員の司会、議長に青年部の並木君を選出して始まった。

支部を代表して関支部長は、「当局の動労千葉つぶしの攻撃にはストライキを含めた実力闘争で反撃しよう。清算事業団の仲間の奪還、物販運動の強化を勝ちとろう」と決意を明らかにした。

つづいて、来賓の挨拶にはいり、葛飾区労協の鈴木事務局次長、社会党の清田葛飾区議、労金市川支店、中江昌夫船橋市議、動労千葉本部から山口副委員長の前で挨拶を受けた。

区労協の鈴木事務局次長は、「区労協として動労千葉の上映運動と物販運動を取り組んでいる。今後とも、動労千葉の要請に協力していきたい」と述べた。また、労働基準法改悪に対するたたかい、未組織労働者との地域に根ざした運動を展開していくことを明らかにした。

動労千葉本部を代表して発言に立った山口副委員長は、「新小岩支部の動員力が動労千葉の運動を支えている。上映会の成功をベネにさらに奮闘してもらいたい」「強権的労務支配のもとで運転保安を無視し、上越線などの重大事故が頻発している。運転保安を守るためにはストライキ体制を強化、継続していくことが重要だ」と述べた。

来賓の挨拶に続き議事に入り、執行部による一般経過報告、会計報告、運動方針を支部組合員に提起し、質疑応答に入った。

質疑では、機関区内の日貨労とのたたかい、物販の取り組みの強化、新金線における運転保安の問題、五六予科と五七予科の士職登用の問題、乗車証の問題など活発な質問が出された。

質疑に対する本部と支部の答弁、途中から駆けつけた本部中野委員長長の発言を受け、全支部組合員は、より一層の勝利への確信とたたかう決意を固めた。

大会は最後に、関支部長の団結ガンバロー三唱をもつて成功裡に終了した。



持ち前の機動力を発揮し、動労千葉の牽引車となっている新小岩支部。
（写真は、新小岩の先頭を新たに担う新執行部。）

国鉄「分割・民営化」反対／三里塚二期工事阻止／
全支部のトップをきって、11月26日
新小岩支部定期大会開催される

住田・松崎は東中野
事故の責任をとれ！

事故をひきおこしたJRの責任にひとかけらの怒りもなく、革マル謀略論をもちだし、ただただ動労千葉の安全運転闘争に敵対する鉄道労連革マル！

東日本旅客鉄道労働組合千葉地方本部
執行委員長 遠藤豊勝

厳戒体制の確立について

東鉄労千指第29号
1988年12月5日

支部委員長 各分会長 股長
東日本旅客鉄道労働組合千葉地方本部
執行委員長 遠藤豊勝

厳戒体制の確立について

12月5日、東中野駅構内で名の死者（乗客1名、運転士1名）を含む100人以上の死傷者を出すという重大事故が発生しました。死に別れたお客さまに心から哀悼の意を表します。また怪我をされたお客さまに対しても心からお詫言を申し上げ、一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

東鉄労は組合員の死と、多数のお客さまの死傷という重大事故を厳戒に受け止め再び起こさないために最大の努力をおこなう決意を本部アピール、地本緊急アピールとして明らかにしたところで、置かれている社会的責任を自覚し、会社とともに事故撲滅にむけて最大の努力をしていきたいと思ひます。各分会、支部のいっそうの努力をお願い致します。

今後、東鉄労およびJR東日本の対応が社会的に注目されます。とりわけ千葉支社はその最大の的になると思ひます。また、天皇陛下のご病状についてはマスコミ等で報道されています。

東鉄労としては、社会的な常識において会社に協力し取り組みます。この東鉄労の取り組みに対して、さまざまな立場からの誹謗・中傷がでてくるものと予想されます。すでに千葉労などは東鉄労攻撃を続けています。また各地方で不審な事態が発生しています。今後、どのような事態が発生するのかわからない状況となっています。

とくに、各級機関・組織役員は動向に注目しています。東鉄労組合員として、あるいはJR社員として、飲酒などにぎやかな行為がそれ自身が問題にされかねない状況であります。

したがって、各級機関は置かれている現状をしっかりと認識し、責任ある行動をおこなうよう下記の取り組みについて組合員に指導し、

鉄道労連では安全は守れない。
「労連組合員」は脱退しよう

△新執行体制▽

支部長	関	執行委員	大
副支部長	的	豊	岩
書記長	若	正	川
書記次長	君	寛	田
	塚	特	松
			本
			中
			台
			分
			国
			斉
			藤
			隆
			男
			政
			幸
			親
			夫
			伸
			定
			雄

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！